

那須野が原博物館 中期目標項目・評価シート  
第1期(平成24～28年度)

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	28年度目標値(5か年)	27年度目標値	27年度実績	備考	
1. 資料の収集と保存・活用							
1-1 資料の収集	収集方針をもとに寄贈・購入・採集を通して積極的かつ継続的に収集します。	収蔵資料総件数		65,047件	63,777件	74,048件	H28.3.31現在 歴史18,444件、民俗 5,226件、考古4,284 件、美術3,574件、文学 44件、地質595件、植 物4,946件、動物36,935 件 合計74,048件
		新規収集資 料件数	歴史(寄贈を除く)	65件	13件	82件	塩原温泉資料、鉄道 関係資料ほか
			民俗(寄贈を除く)	0件	0件	1件	衣襲明神像(富山版 画)
			考古(寄贈を除く)	0件	0件	0件	
			美術(寄贈を除く)	91件	18件	1件	購入(竹工藝)
			文学(寄贈を除く)	25件	5件	3件	原稿、推薦文ほか
			地学(寄贈を除く)	150件	30件	6件	購入(化石)
			植物(寄贈を除く)	250件	50件	0件	
			昆虫(寄贈を除く)	1,500件	300件	295件	購入174件、採集121 件
			動物(寄贈を除く)	35件	7件	16件	購入16件(哺乳類、爬 虫類、魚類)
		寄贈他(全分野)	—	—	956件	歴史885件、民俗67 件、地質2件、動物2件	
		合計	2,116件	423件	1,360件		
		収蔵図書総件数		12,482件	12,362件	14,661件	
新規収集図 書件数	購入	150件	30件	36件			
	寄贈・その他	—	—	576件			
1-2 資料情報の公開	収蔵資料データベースの公開を行 い、研究者等による利用を促進しま す。	収蔵資料情報公開件数		10,000点	2,000点	265点	歴史資料265件 累計15,979件
	必要な収蔵スペースを確保するとと もに、収蔵庫・展示室を良好な環境に保 ち、燻蒸により資料の安全な保存を図 ります。	燻蒸回数	那須野が原博物館	5回	1回	1回	
			附属施設	5回	各1回	1回	黒磯郷土館(展示施設 1回)

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	28年度目標値(5か年)	27年度目標値	27年度実績	備考	
1-3 資料の適切な管理	資料の修復等を行い、資料の保存状態を改善します。	収蔵庫の増設				27年度設計 29年度本体工事 予定	
		資料の修復	歴史資料	50件	10件	8件	
			考古資料	25件	5件	3件	
			美術資料	5件	1件	1件	《行列》
		美術資料(ブロンズ化)	3件	1件	1件	《黎明》	
1-4 資料の活用	常設展示・企画展示等による資料の利用・公開を促進します。	展示利用率	常設展示	1.0%	1.0%	1.4%	展示件数合計／総収蔵件数
			企画展示	5.0%	5.0%	2.2%	$\Sigma$ (展示件数÷該当分野収蔵件数)×100)÷展示回数
			トピックス展他	1.0%	1.0%	0.6%	$\Sigma$ (展示件数÷該当分野収蔵件数)×100)÷展示回数
			黒磯郷土館	1.0%	1.0%	1.0%	展示件数／収蔵件数
			日新の館	0.5%	0.5%	0.4%	$\Sigma$ (展示件数÷該当分野収蔵件数)×100)÷展示回数
	関谷郷土資料館	1.2%	1.2%	1.1%	展示件数／収蔵件数		
	収蔵資料を他の博物館・美術館等へ貸し出します。	貸出回数	—	—	7回	壬生町立歴史民俗資料館、月山あさひ博物館、高根沢町歴史民俗資料館、三重県総合博物館、栃木県立博物館、東日本鉄道文化財団、栃木県埋蔵文化財センター	
【特記事項】	<p>特別展・企画展展示資料として、塩原温泉関係資料や昆虫標本等を重点的に購入した。写真展開催に向けて市民に古写真の提供を呼びかけた結果、23件の提供を受け、画像のデジタル化を行った。養蚕資料265点の情報を公開した。S-netは、まとまったコレクションがすでに公開済みであることから新規公開は見送った。三木俊治作《行列》の移設及び保存処理を行った。</p> <p>&lt;補足&gt; 平成28年2月に現代美術家の三木俊治氏より2度目の寄贈(現代美術作品及び関連資料62点)を受けたが、現在登録作業を進めている段階であるため、「1-1資料の収集」の数には含めていない。</p>						
【課題・改善点等】	<p>資料の収集は、採集・購入・寄贈等により継続的に実施している。新たに増設する新収蔵棟の設計業務を実施した。一方、建設工事は那須塩原市の実施計画において、29年度以降に見送りとなった。すでに、収蔵スペースが大幅に不足しており、資料の安全な保管環境が確保できない状況が続いていることから、早急に建設に着手できるよう要望していきたい。</p>						
【外部評価委員 所見】	<p>収集方針をもとに寄贈・購入・採集等を通して、積極的かつ継続的に収集していただきたい。また、収蔵資料データベースの公開を行い、研究者等による利用を促進していただきたい。燻蒸の実施により、収蔵庫・展示室の良好な維持管理に努めることが重要である。さらに、収蔵資料の他施設への貸し出や、他館からの資料の借用があるが、資料の状態を常に注意しながら、実施されたい。収蔵庫の増設については、資料の管理上、また資料を後世へしっかり伝える意味からも、早急なる建設が望まれる。</p>						

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	28年度目標値(5か年)	27年度目標値	27年度実績	備考
<b>2. 調査研究</b>						
2-1 調査研究活動の推進	那須野が原およびその周辺に関する調査研究、並びに博物館学的調査研究を積極的に行います。	那須野が原博物館紀要掲載論文の件数	25件	5件	4件	
2-2 地域研究者等との協働による調査研究の推進	地域研究者を客員研究員に委嘱し、幅広い分野から調査研究を行います。	客員研究員数	10人	2人	0人	
	那須を綴る事業を実施し、地域研究者による那須地方の研究成果を公開します。	地域研究者数	15人	5人	5人	
【特記事項】	那須を綴る事業は、第4期の2か年事業(27年度・28年度)として実施。今後は地域研究者に紀要への投稿を呼びかけそれを支援する体制に移行し、客員研究員の制度は廃止することとした。					
【課題・改善点等】	紀要は調査研究成果の公表のために、毎年1回継続して発行する。那須塩原市で実施している動植物実態調査や地域研究者等と連携・協働を図り、地域の解明に努めていきたい。年度によって投稿件数に差が出てしまうので、報文の受付方法や予算の獲得などが課題である。					
【外部評価委員 所見】	那須野が原博物館は毎年紀要を継続発行し、自主団体も会活動の記録・研究の成果をまとめて報告している。また、特色ある出版活動なども行われている。今後もこれらの活動を継続していただきたい。					
<b>3. 展示</b>						
3-1 企画展示の開催	収蔵資料の有効活用を図るとともに、地域または各分野のテーマを深く理解するため、企画展示等を開催します。	企画展示の開催回数	25回	5回	5回	
		企画展示の観覧者数(学校を除く)	66,600人 (H28年度16,000人)	13,629人	14,689人	目標値:過去5か年のうち最多・最少を除く3か年の平均×1.1
		観覧者の満足度(平均)	90%	90%	94%	5段階評価のうち、上位2位の合計
3-2 企画展示の理解促進	図録の発行、記念講演会・展示解説等の開催により、観覧者が展示内容を理解しやすいようにします。	図録の発行件数	5件	1件	2件	『那須野が原の自然』・『おもいで写真館』
		関連事業の参加率	70%	60%	66%	昆虫95%、自然53%、工芸45%、写真-
		参加者の満足度(平均)	90%	90%	97%	昆虫100%、自然100%、工芸87%、写真-
3-3 常設展示の充実	常設展示の充実を図ります。					
	開館10周年に展示リニューアルを行います。				実施済み	
【特記事項】	5回の企画展示(特別展:「那須野が原の自然」・「東京国立近代美術館工芸館名品展Ⅳ」・「おもいで写真館」、企画展:「むし's style」・「三木俊治のまなざし」)を開催。H27年度観覧者総数:19,266人(うち学校見学4,577人)・利用者数28,780人。					
【課題・改善点等】	特別展「那須野が原の自然」は地域を対象としたテーマであったが、十分に魅力が伝わらず、観覧者は少なかった。一方、特別展「おもいで写真館」は、昭和の街並みや人々のくらしが身近に感じられ観覧者も多く、写真集の販売も好評であった。成人及び高齢者層への周知方法として、チラシの全戸配布や広報の特集記事が効果的であった。企画展「むし's Style」は、現代美術とのコラボレーションが奏功し、展示の一体感も醸成できた。特別展「近美工芸館名品展Ⅳ」は親子が楽しめる内容にし、前回よりも観覧者が増加した。企画展「三木俊治のまなざし」は、彫刻家三木俊治氏の作品及びコレクションの寄贈を受け開催した。地元作家の紹介で、広報の特集や新聞記事等で話題を呼んだ。27年度全般として当初の目標を1,000人程度上回る事ができた。					

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	28年度目標値(5か年)	27年度目標値	27年度実績	備考
【外部評価委員 所見】	自然系・人文系の特別展・企画展ともに見学者に対し興味と感動を与える工夫がされた展示であった。特に「おもいで写真館」は印象に残る展示であり、今後も展示の切り口やアピールする部分のメリハリを更に工夫してほしい。自然系の展示では、テーマの特性や内容を踏まえ、開催時期や期間を考慮し、充実した展示を期待したい。特別展は、中長期の展示計画のもとにその準備期間をしっかりと設け、参加・体験型展示の充実を期待したい。					
<b>4. 教室講座</b>						
4-1 教室の実施	子ども・親子を対象に各種教室を開催し、体験を通じた学習活動を展開します。	参加率	90%	85%	97%	土器87%、昆虫107%、化石91%、科学100%、はたおり100%
		参加者の満足度(平均)	90%	90%	98%	土器100%、昆虫100%、化石98%、科学94%、はたおり100%
4-2 講座の実施	一般を対象に講座を開催し、地域の自然・文化に対する認識を深めます。	参加率	70%	60%	50%	セミナー60% 自然講座40%
		参加者の満足度(平均)	90%	90%	92%	セミナー86% 自然講座97%
4-3 博物館フェスタの実施	博物館をより身近に感じていただくために博物館フェスタを開催します。	来館者数(延べ)	1,200人	1,200人	1,342人	
		参加者の満足度(平均)	90%	90%	100%	
4-4 親子体験チャレンジの実施	創作活動を通じて、昔のくらしや自然科学への理解を促進します。	参加率	70%	60%	105%	20回実施
		参加者の満足度(平均)	90%	90%	97%	20回平均
4-5 各種普及事業の実施	シンポジウムや研究発表会を開催し、市民とともにこれからの地域のあり方を探ります。	参加率	70%	60%	72%	研究発表会93%、なはくAP50%
		参加者の満足度(平均)	90%	90%	98%	研究発表会100%、なはくAP96%
4-6 生涯学習活動の支援	質問や相談等に対応し、市民の生涯学習に寄与します。	レファレンス件数	100件	20件	39件	同定依頼、地域史、収蔵資料等
【特記事項】	講座は一般を対象に「那須周辺域セミナー」(5回)・「那須塩原自然講座「自然のここがおもしろい!」」(3回)を開催。子ども・親子対象の教室として、「子ども土器づくり教室」(4回)・「親子昆虫教室」(2回)・「化石発掘隊」(3回)・「夏休み子ども科学教室」(3回)・「子どもはたおり教室」(2回)の5コースを実施。その他に「親子体験チャレンジ」(20回)・「なはくアートプロジェクト」(8回)・博物館フェスタ等を開催した。					
【課題・改善点等】	子ども対象の教室は参加率、満足度ともに目標値を上回った。講座は満足度は高いものの参加率が低く、他の団体や施設で実施している事業との差別化を図る必要がある。博物館フェスタは来場者が多く、会場が大変混雑した。実施方法を検討し対応を改善していきたい。親子体験チャレンジは非常に好評である一方で、定員を超えたため参加できない来館者への対応が求められる。次年度は人気メニューを2回実施し参加者の動向をみたい。今年度より美術の普及事業として「なはくアートプロジェクト」を実施した。展示鑑賞や造形・創作活動を行った。テーマによって参加者数にばらつきがあったが、今後も継続して実施し市民への浸透を図りたい。					
【外部評価委員 所見】	子ども・親子対象の教室・体験事業は、どれも好評価を残しており、博物館事業の一つの柱となっている。子どもの事業参加は、博物館の将来の発展にも大きく影響すると考えられることから、今後も更なる発展を希望する。 反面、一般人対象の講座参加率を増やすための対策が大きな課題となっている。体験型講座などの新たな形を考えてみてはどうだろうか。					

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	28年度目標値(5か年)	27年度目標値	27年度実績	備考
<b>5. 地域との連携</b>						
5-1 各種機関等との連携・協力	各種機関等と連携を図り、広範囲な活動を展開します。	連携事業件数	20件	4件	3件	ピクチャー展示、フィルム、コンサート
	文化・自然に関する活動に対し、学術的な協力をを行います。	協力件数	30件	6件	10件	市生涯学習課、市環境管理課2名、栃木県(文化財、文化功労者選考、レッドデータブック2名)、鹿沼市、大田原市、那珂川町
5-2 学校教育との連携	学校による見学・体験学習の充実を図るとともに、収蔵資料の貸出し・出張授業等により学校教育の支援を行います。	学校来館数(那須野が原博物館)	500校	100校	107校	
		学校来館数(黒磯郷土館)	25校	5校	15校	幼稚園1件含む
		資料貸出件数	75件	15件	27件	ビデオ11件、民具4件、開拓3件、その他9件
		出張授業件数	50件	10件	4件	開こん記念祭
5-3 実習等の受け入れ	博物館実習や生徒の職場体験等を受け入れます。	博物館実習・職場体験件数	50人	10人	3人	中学生の職場体験
5-4 市民との協働	「那須を綴る」事業により、市民による調査・公開・編纂を進めます。		3回	1回	-	1回/2年
	団体・研究者等との協働により、資料や情報の収集を図ります。					
	ボランティア活動を支援し、市民による教育普及活動を促進します。					
【特記事項】	<p>《市民、自主団体による教育普及活動への支援内容》</p> <p>石ぐら会「那須野が原入門講座」、いろりの会「昔のおもちゃづくり」、那須文化研究会「講演会」、那須野が原の自然調査会「一般向け観察会」、西那須野土器づくりの会「一般向け土器づくり教室」、語り部炉ばた「民話語り」、ミュージアムフレンズなすの「学習会」、ジュニア生き物クラブの活動等</p>					
【課題・改善点等】	<p>学校見学については、今年度は3年生の体験学習が増えた。今後の学校の動向を注視していく。</p> <p>市民の地域研究活動については、展示事業をはじめとする教育普及事業に研究成果を活用する方法を検討する。</p>					
【外部評価委員 所見】	<p>各種機関との連携・協力及び学校教育との連携は活発で評価できる。実習生の受け入れは中学生の職場体験3名に留まったが、これは博物館のPR・理解に繋がるので歓迎すべき事業といえる。当博物館を活動の場とした11もの自主団体の存在は他に例を見ない地域との強い絆を示す当博物館の特色であり、おおいに評価されてよい。今後も市民の文化活動に対する博物館の積極的な支援をお願いしたい。現代日本の社会状況の中で博物館の運営は難しい面が多いが、文化のオアシスとして地域との連携を強化してゆくことが肝要であろう。</p>					
<b>6. 施設整備</b>						
6-1 施設の維持管理	施設を安全かつ快適な環境に保ち、資料の適切な保管環境を整えます。	施設の清掃、空調設備のメンテナンス及び更新				
6-2 危機管理体制の強化	自然災害や火災・盗難・事故等に備え、防災意識の向上と危機管理体制の強化を図ります。	防災訓練の実施回数	10回	2回	2回	
		危機管理体制の整備状況				

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	28年度目標値(5か年)	27年度目標値	27年度実績	備考
6-3 附属施設活動の充実	附属施設(黒磯郷土館・日新の館・関谷郷土資料館)の特徴を活かした活動を展開します。	黒磯郷土館来館者数	1,800人	1,800人	2,669人	
		黒磯郷土館来館者の満足度(平均)	90%	90%	86%	
		日新の館来館者数	1,500人	1,500人	1,192人	
		日新の館企画展の開催回数	25回	5回	5回	人形展、高久靄匡展、峰村北山展ほか
		日新の館来館者の満足度(平均)	90%	90%	75%	
		関谷郷土資料館来館者数	14,000人	14,000人	11,841人	
		関谷郷土資料館来館者の満足度	90%	90%	%	回収なし
【特記事項】	黒磯郷土館は常設展示資料の整理・改善を実施した。日新の館では年間5回の企画展を実施しているが、観覧者数が少ない状況にある。関谷郷土資料館は、震災以降来館者が減少しているが、隣接地に市観光局がオープンしたこともあり今年度は回復傾向にある。					
【課題・改善点等】	防災訓練の実施方法などを検討し、危機管理体制の強化を図る必要がある。日新の館については、来館者が目標の8割程度であり、企画展示内容の充実や広報の改善が必要である。					
【外部評価委員 所見】	那須塩原市では、那須野が原博物館を主なるものとして地域の歴史・文化及び自然等の研究、展示等の施設として4つの施設があり、それぞれに作られた経緯がありその目的を担ってきている。しかし、各施設について検討すると、目的・特徴が十分生かされていないと考えられる。役割及び保全等について十分検討するとともに、地域の独自性を生かし、その特徴を出していくことも考えられる。					
<b>7. 組織人員</b>						
7-1 効率的な組織運営	情報の共有化や事務事業の分担を促進し、効率的な運営に努力します。					
7-2 意識改革と資質の向上	職員全員が当館の使命及び目標を認識するとともに、能力開発・資質向上に努めます。					研修参加：栃博協主催1名、学芸員専門研修1名
7-3 効果的な広報体制	各種メディア等への情報提供を積極的に行います。また、ホームページを充実し、認知度の向上を図ります。	マスコミ・メディア等の掲載回数	100回	20回	29回	新聞20回、情報誌5回、ラジオ1回、テレビ3回
		ホームページの閲覧回数	300,000回	60,000回	101,621回	ページビュー数
		ホームページの更新回数	240回	48回	48回	
【特記事項】	各メディアへの情報提供は積極的に行っている。ホームページの更新に加えて、ソーシャルメディア(Facebook)を活用して効果的・効率的な情報発信を行っている。					
【課題・改善点等】	人文分野の学芸員の新規採用が重要課題である。					
【外部評価委員 所見】	附属施設を含めて、学芸員並びに事務職員が不足している。博物館などの文化施設は、市民にとって最も身近な学びの施設であり、市内外においても行政の在り方が大きく問われる施設である。現在の職員数や体制ではすでに限界であり、経年の問題である専門の学芸員・事務職員の充実を図ることで、年々多様化する幅広い市民サービスの向上に努められたい。					

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	28年度目標値(5か年)	27年度目標値	27年度実績	備考
---------	---------	------	--------------	---------	--------	----

**【外部評価委員 総合所見・指摘事項】**

市民提供による近現代の生活史を記録した写真収集と特別展「おもいで写真館」、あるいは美術分野と自然分野が連携した企画展は、総合的な博物館としての那須野が原博物館の存在を市民に伝えるものとして評価できる。また、自然・人文分野における市民協働による教育普及活動が充実してきていることも評価に値する。

那須野が原博物館設立から11年を経過した中で、那須野が原の自然・歴史・民俗・美術等の各分野における資料の調査研究・保存活動を計画的に進められてきたことを評価するとともに、各分野のバランスが取れた資料の収集・調査研究・保存活動について、これからも、より一層の精査と充実化を図られたい。さらに、那須野が原の地域遺産の価値や意義を市民に還元する環境整備としての収蔵庫増設は急務を要する。

さて、市民に開かれた博物館として、市民の理解度や認知度が年々高まってきているが、少子高齢化や人口減は否めないところである。あるいは、講演会や講座などについては、公民館などの関連施設で行っている講演会や講座との競合を改善する課題も与えられている。そこで、年齢構成や市民の文化意識が変容していく中、地域の総合的な博物館としてのあり方や市民意識、市民のニーズを正確にとらえ、地域に応えることのできる展示・講座・教育普及に努めるとともに、専門的な知識を有する市民や研究団体との連携・強化を図ることや各分野における学芸員確保をお願いしたい。

さらに、附属施設においても、利用者の向上を図ることや地域意識の多様化・個別化に応えるための企画・活動ができる人材・設備の環境整備が必要であろう。施設整備においては、災害時の来館者の安全確保や資料の保全に向けて、日頃からの危機管理や安全対策を怠らぬようにしていただきたい。

**【博物館の対応】**

博物館フェスタや親子体験チャレンジなどの市民との協働による教育普及事業は、参加者も多く好評を得ている。今後は、参加できなかった方への対応など運営面での課題解決に努めていきたい。収蔵庫の増設は、27年度に設計業務を完了した。できる限り速やかに建設工事に着手できるよう実施計画に計上していきたい。また、資料は特別展開催等の長期的な計画をもとに、継続的に収集していきたい。紀要は今後も引き続き毎年度発行するとともに、地域の研究者や自主団体等と密接に連携し、様々な分野の調査研究を行い、地域の解明を図りたい。一般対象の講座は、講義形式の他に見学会やワークショップ、市民参加型のモニタリング調査など、より効果的で魅力のある形式を検討していきたい。附属施設は、施設をとりまく環境や人員の配置など様々な課題を抱えている。合併後10年が経過し、今後の施設のあり方について検討すべき時期にきている。

**外部評価委員**

平成28年度那須塩原市那須野が原博物館協議会委員

植木不二夫(会長)	阿部 英一
笹沼恭欣(副会長)	田代 芳寛
高久 昭彦	川島 勝子
高根沢広之	松村 雄
木村 康夫	君島 章男